

多数決について

矢萩 彩

宮城県名取高等学校

私は多数決の人選に対して反対です。理由は三つあります。

一つ目は、意見に偏りが出てしまい結果、人を傷つける可能性があることです。私の小学校には、鼓笛隊がありました。私はそこで小太鼓を演奏することに憧れていたため、小太鼓の練習を沢山しました。しかし、私の代では楽器のオーディションではなく、黒板に名前を書くのみで行われるクラスの多数決でした。クラスのみならず人気あまりなかったため私の支持率は低く、小太鼓には選ばれませんでした。それから私は、なぜあの時、先生は候補者について詳しく投票者に開示しない状態で多数決を行ったのだろうと疑問を抱くようになりました。技術を正當に評価されるのではなく、名前だけで評価されたことにより、当時の私は酷く傷付きました。多数決というのは大多数の支持が集まった人が当選するシステムであり大きな効力を持つからこそ、使用する場は見極めなければならなりません。場合に応じた話し合いの方法をしっかりと選んだ方がいいと思いました。

二つ目は、少数意見を尊重することが難しいということです。多数決を行う場合、多数意見と少数意見に分かれてしまいます。その場合少数意見は反映されないという結果になってしまいます。それらは、選挙でも同じことが言えると思います。たとえば、派閥や知名度が大きければ大きいほど政策内容とは関係なく有利になります。また、政策が良くても派閥や知名度が小さければ不利になる可能性もあります。このように多数決を採ることで、革新的で良い人物やアイデアがあっても、選ばれないことがあります。参加者すべての人が同程度の見識や知識を持っているとは限りません。このことから、私は平等ではないと思いました。

三つ目は、投票する人の責任感が欠如している場合があるということです。多数決で重要視されるものは投票数なので、信憑性にかけています。この人のこの意見にどういった考えで投票したのか、逆にこの人のどの部分に反対して、投票しなかったのか。このように深く考えずに簡単に投票できてしまうのはデメリットと言えます。そして、そのアイデアや人物がよくない方向に行ってしまった際に責任者の所在が不明確であるがために、だれも責任を取らない恐れがあります。一方、他のどの話し合いより、結果までのスピード感があるのはメリットと言えるのかもしれません。そのため、投票者一人一人が情報を集め、考え、責任を持ち投票するべきだと思います。

このように多数決とは誰もが簡単にできる選択方法です。しかし、それが故に、すべての話し合いを多数決で決めることが多くなってしまい、場合に応じた話し合いができなくなってしまいます。結果、傷ついてしまう人や、誰も責任をとる人がいなくなったり少数の意見が尊重されなかったりという問題点が出てきてしまいます。それらの問題点を解消していくために、まずは多数決のメリット、デメリット、心がけなければならないことなどをしっかり知っていくのが大切だと思います。投票者は候補者の情報を集め、自分の票に責任を持つことが話し合いの第一歩だと言えるでしょう。